

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 103-8210
 住 所 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
 氏 名 花王株式会社
 代表取締役 社長執行役員 澤田 道隆
 (代理人)川崎工場 工場長 奥村 正秀
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

| | | | |
|---------------------|--|--------|-------------------|
| 事業者の氏名 又は名称 | 花王株式会社 川崎工場 | | |
| 主たる事務所又は 事業所の所在地 | 川崎市 川崎区浮島町1番2号 | | |
| 該当する事業者 の要 | <input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者) | | |
| 主たる事業 の業種 | 大分類 | E | 製造業 |
| | 中分類 | 16 | 化学工業 |
| 主たる事業 の内容 | 衣料用・台所用合成洗剤、住居用洗剤、柔軟仕上げ剤、シャンプー、リンス 及びボディーシャンプー等の製造 | | |
| 事業者の規模 | <input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量 | 16,706 | k l |
| | <input type="checkbox"/> 自動車の台数 | | 台 |
| | <input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量 | | t-CO ₂ |

(第2面)

| 計 画 期 間 | 2019 年度 ~ 2021 年度 |
|------------------------------------|---|
| 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針 | 別添 指針様式第1号のとおり |
| 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制 | 別添 指針様式第1号のとおり |
| 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量 | 別添 指針様式第1号のとおり |
| 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項 | 別添 指針様式第1号のとおり |
| 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項 | 別添 指針様式第1号のとおり |
| その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項 | 別添 指針様式第1号のとおり |
| 備 考 | 当社の環境への取組については、ホームページに公表しています。 http://www.kao.com/jp/corp/eco/ |

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

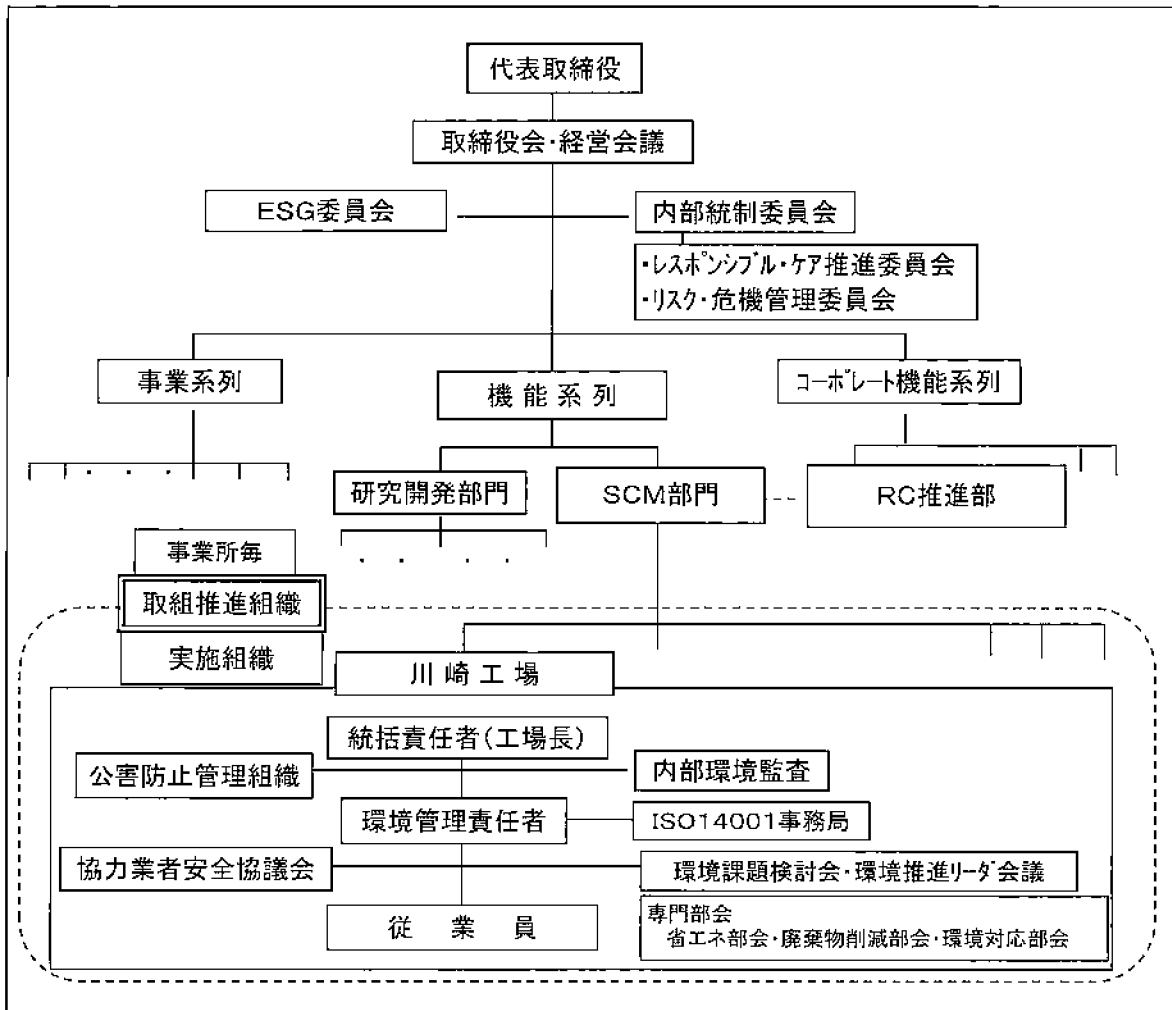
(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

花王グループ環境方針
 (使命)
 私たちは、消費者・顧客の立場にたって、心を込めた“よきモノづくり”を行ない、世界の人々の喜びと満足のある豊かな生活文化を実現するとともに、社会のサステナビリティ（持続可能性）に貢献することを使命とします。この使命のもと、私たちは全員の熱意と力を合わせ、清潔で美しくすやかな暮らしに役立つ商品と、産業界の発展に寄与する工業用製品の分野において、消費者・顧客と共に感動を分かち合う価値ある商品とブランドを提供します。
 (方針)
 ~中略~
 3. 気候変動の緩和に貢献するため、温室効果ガスの排出削減と、水を含む資源・エネルギーの効率的かつ持続的な使用などを推進し、また気候変動への適応に努めます。
 ~後略~

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

花王グループ環境方針
 (方針)
 ~中略~
 5. 環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境保全と汚染予防に努め、環境パフォーマンスの向上を図ります。
 ~後略~
 ①上記の方針によりSCM部門で定めた省エネ・排出量削減目標に基づき、各部門が目標、年間計画を策定する。その内容と進捗状況は四半期ごとに環境課題検討会で確認・共有する。
 ②年間計画の実施項目の進捗管理とエネルギー使用量・排出量の実績管理を行い、運転、設備保全上の課題を整理し、計画の見直しを行う。
 以上の方針により、PDCAサイクルを実行・管理する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（(実)は実排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。）

| | | 1、2、4号該当者等 | | 3号該当者等 | | |
|-----------|------------|------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 基 準 年 度 | | 2018 | | | | 年度 |
| 目 標 年 度 | | 2021 | | | | 年度 |
| 基 準 排 出 量 | (実) | 32,878 | | (実) | | |
| | (調) | 32,883 | t-CO ₂ | (調) | t-CO ₂ | |
| 目 標 排 出 量 | (実) | 32,170 | | (実) | | |
| | (調) | 32,180 | t-CO ₂ | (調) | t-CO ₂ | |
| 削 減 量 | (実) | 708 | t-CO ₂ | (実) | t-CO ₂ | |
| 内 訳 | 対策実施による削減量 | (実) | 708 | t-CO ₂ | (実) | t-CO ₂ |
| | 上記以外の削減量 | (実) | 0 | t-CO ₂ | (実) | t-CO ₂ |
| 削 減 率 | (実) | 2.2 | % | (実) | % | |

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

| | | 1、2、4号該当者等 | | 3号該当者等 | |
|-----------------|--|-----------------------------------|--|--------|--|
| 原 単 位 等 の 活 動 量 | | 生産重量 | | | |
| 原 単 位 の 単 位 | | t-CO ₂ /t _重 | | | |
| 基 準 年 度 の 値 | | 0.07373 | | | |
| 目 標 年 度 の 値 | | 0.07149 | | | |
| 削 減 率 | | 3.0 % | | | |

ウ 目標設定に関する説明

温室効果ガスの排出量原単位の削減を図るため、排出量原単位の値を年平均で1%以上削減することを前提に目標を設定しました。

省エネルギー設備の導入については、基準年度から下記の積極的な活動を行います。

- 低圧系スクリーンプレッサーの高効率機へ更新による電力削減（排出削減量273 t-CO₂）
- 高圧系コンプレッサーのインバーター機へ更新による電力削減（排出削減量218 t-CO₂）
- エアリーク削減による無駄な電力削減（排出削減量60 t-CO₂）
- 防爆エリア照明のLED化（排出削減量21 t-CO₂）

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

花王グループの全拠点における温室効果ガス排出量の2020年目標は、毎年1%削減を目標に、2013年に設定しました。2019年は2009年比で3.3%削減を目標にしています。

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容(別表第1から6等を参考に記載してください。)

| | |
|--------------------------------|---|
| 計 画 | <ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー使用量等の把握 各部門の毎月のエネルギー使用量を把握・分析を行ない、原油換算量及びCO₂排出量毎の原単位をまとめ、定期報告を行う。 ○ボイラー空気比の適正化 小型貫流ボイラー設備(7基)の最適な燃焼を維持するため、定期点検において、空気比の適正化を行う。 ○ヒートポンプの導入 標準的な熱源設備よりも高効率なヒートポンプの導入を検討し、工場内空調機器更新の際採用すると共に、生産設備での温水・冷水を製造する設備への導入検討を行う。 ○コージェネレーション設備の保安全管理 ガス圧縮機、ガスタービン、排熱ボイラー、脱硝装置等の定期的な保守管理を行い、総合的な高効率運転の維持を行う。 ○コンプレッサーの更新による空気原単位の改善 老朽化更新に合わせ、高効率機器及びインバーター機の導入により電力削減を行う。 ○工場防爆型照明のLED化により照明に更新し、メンテナンスの効率化及び消費電力の削減を行う。(218台) ○スチームトラップ簡易保温設置による放熱ロス削減 |
| 第1年度 | |
| 第2年度 | |
| 第3年度 | |
| 計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載) | |

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

| | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○コージェネレーションシステムの導入 都市ガスを用いるコージェネレーションを下記に導入し、生産した蒸気、電力を自家消費する。 ・2号機 : 発電容量 6,450 kW 排熱1台 13.2 t/h ・3号機 : 発電容量 6,230 kW 排熱1台 11.0 t/h ○乾燥塔設備の大型送排風機への回転数制御装置の導入 送風機 150 kW 2台 排風機 500 kW 2台 ○インバーター式蛍光灯安定器への切替え実施 設置台数 2,758 灯 取替え台数 2,077灯 ○プロセス設備より廃熱利用による吸収式冷凍機の導入 ○各建屋の非常口誘導灯へのLED及び陰極冷熱式誘導灯の導入 ○空気圧縮機の台数制御装置の導入 ○新型の小型貫流ボイラー更新(2.5t/h×4基=10t/h) ○蒸気ドレン廃熱回収水のボイラー給水へ直接利用化 ○工場水銀灯、ナトリウム灯のLEDへ更新 ○冷凍機の高効率ターボ冷凍機の導入 ○工場内、自動倉庫、事務所の蛍光灯をLEDへ更新 ○コンプレッサーインバーター機315kW導入 | <ul style="list-style-type: none"> 平成11年2月稼働 平成16年2月稼働 平成14年度に完了 平成21年度75%達成 平成21年度2月稼働 平成21年度100%達成 平成23年3月稼働 平成24年3月稼働 平成25年8月稼働 平成25年、26年度完了 平成26年8月稼働 平成30年稼働(100%完了) 平成31年稼働 |
|--|--|

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

| 再生可能エネルギー源等の種類 | 検討の有無 | 検討結果 |
|----------------|-------|--------------------------|
| 太陽光 | ○ | 太陽光発電配置検討済(244kWh)、設置検討中 |
| 風力 | × | |
| バイオマス | × | |
| 未利用エネルギー | × | |
| その他() | | |
| その他() | | |

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

| 種類 | 概要(規模、場所など) | 導入(保有)年度 |
|-------|------------------------------------|----------|
| 太陽光発電 | 倉庫屋上2,400m ² 、発電出力244kW | 2022年度 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

| 設備等の種類 | 導入等の状況 | 設備等の種類 | 導入等の状況 |
|-------------------|--------|-------------------------|--------|
| 電気自動車等への充電設備 | × | エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等) | × |
| 電気自動車等から建物等への給電設備 | × | その他() | |
| EV、PHV、FCV | × | その他() | |

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

| | |
|------|---|
| 計 画 | 自然エネルギー発電（バイオマス発電）によるグリーン証書取得 CO2削減量：5、4千t-CO2/年 |
| 第1年度 | |
| 第2年度 | |
| 第3年度 | |

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

| | |
|------|---------------------|
| 計 画 | 買電電力のグリーン証書取得を継続する。 |
| 第1年度 | |
| 第2年度 | |
| 第3年度 | |

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

| | | |
|-----|--------|-------------------|
| (実) | 32,878 | t-CO ₂ |
| (調) | - | |

イ 原油換算エネルギー使用量

| | |
|--------|----|
| 16,706 | KL |
|--------|----|

ウ 事業所の数

| |
|---|
| 1 |
|---|

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

| 事業所の名称 | 事業所の所在地 | エネルギー起源CO ₂ の排出量 |
|-------------|---------------|-----------------------------|
| 花王株式会社 川崎工場 | 川崎市川崎区浮島町 1-2 | 32,878 t-CO ₂ |
| | | t-CO ₂ |
| | | t-CO ₂ |
| | | t-CO ₂ |

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

| 事業所の名称 | 事業所の所在地 | エネルギー起源CO ₂ の排出量 |
|--------|---------|-----------------------------|
| | | t-CO ₂ |
| | | t-CO ₂ |
| | | t-CO ₂ |
| | | t-CO ₂ |